

<b>I-1 指導計画の作成</b>	
成 と 改 善	長期的な見直しの中で、指導計画を作成しているものの、実際に子どもを受け入れてみなければ発達の状態やクラスの実態把握はできないので柔軟性を持って保育に努める。
<b>I-2 保育内容（健康・人間関係・環境・言葉・表現）</b>	
成 と 改 善	子ども達の日々の体験活動が五感を刺激し生きる力の基となるよう異年齢での縦割り、学年合同保育に加え、担任の交換保育を行う。その中で、年長児の姿に触発されることが多く憧れを抱いたり真似をするなど心情面での育ちに効果を感じている。
<b>I-3 保育環境</b>	
成 と 改 善	身の回りの清潔を保ち、安全面と合わせて怪我のないように配慮する。特に、遊具やおもちゃの点検、園庭整備を全職員が意識して行う。
<b>I-4 保育記録の作成</b>	
成 と 改 善	保育日誌や個人記録、家庭への連絡及び日々の記録が一年のまとめとして育ちを振り返る上で役立っている。書くことで表現力も高まり、子どもを見る目が深まることを感じる。時間を要すことだが、良き保育者になるためにも継続したい。
<b>I-5 情緒の安定</b>	
成 と 改 善	保育者は子どもの気持ちを受け止め、その場の雰囲気や言葉づかい等に留意したい。そして、常に保育者自身が安定した思いで子ども達に向き合えるよう望む。
<b>I-6 健康管理</b>	
成 と 改 善	子どもの健康状態は家庭における毎日の食と関連しているので、個々の体調変化に十分留意する。家庭における生活リズムが乱れないよう子どもの姿を伝え、保護者の啓発、協力を仰いでいる。
<b>II-7 保護者への対応</b>	
成 と 改 善	日頃から保護者と良好な関係が保てるように明るく努めることが必要。信頼関係が保てることで苦情の改善につながる。保護者からの要望等を教職員で共通理解し、対処に努めている。

<b>I-8 保育にあたっての留意点</b>	
成 と 改 善	お互いが同僚して気づきを伝え合ったり、意見を述べたりして、保育の向上に励んできた。今後も先輩、後輩共にお互いが職場の仲間として高めあえるように努めたい。

<b>I-9 特別支援教育</b>	
成 と 改 善	気にかかる子や場に応じて支援を要する子については、担当する保育者のみでなく、全教職員で支えていくように努めている。また、自ずと周囲の子ども達の優しさが仲間づくりへと発展し、子どもらしい会話や関わりが広がることをうれしく思う。

<b>まとめ</b>	
成 と 改 善	保育の出来不出来ではなく、今までの保育を振り返り、取り組んだことの意味や効果などを話し合うことで、自分では気付かなかったことを新たに知る機会にもなっています。多くの項目から組織の一員として、園運営に関わっていることを皆で認識できた良い機会となりました。